

自己評価票

自己評価は全部で100項目あります。

これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。

項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目の や 等)から始めて下さい。

自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したのものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点] (アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(1から 87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(88から 100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム織月の郷
(ユニット名)	2号棟
所在地 (県・市町村名)	鹿児島県鹿屋市
記入者名 (管理者)	内村 仁美
記入日	平成 21 年 9 月 20 日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>理念の中にも地域住民との交流の下住み慣れた環境の中での生活を維持できるようにうたっており、反映している。</p>	<p>地域の中でその人らしく生活できることをこれからも意識し、入居者の自己決定を尊重して利用者中心のケアを心がけていきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>職員全員が理念に従って取り組んでいる。できていない仲間にはその都度注意し合えるような職場の雰囲気作りに心がけている。</p>	<p>ケア提供の際それがホームの理念に適しているかを見つめ直し、その人にとって最良の支援ができていくか意識していきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>家族には入所時に十分な説明を行い理解や共感を得たうえで入所していただいている。また 地域の方々にはホーム便り(ひまわり新聞)を定期で回覧で届けている。</p>	<p>今後も運営理念や活動報告をとおり、地域に広めていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>今年も五月五日に手作りのけせん団子を利用者様と一緒に作りご近所に届けました。誰でも自由に尋ねやすいように、施錠せず開放しているが施設見学者以外、地域の方が立ち寄られることが数少ないので日頃からあいさつやゴミだし等のマナーを守り、快いお付き合いができるように勤めている。</p>	
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>地域自体あまり活発な活動をしておらず、運営推進会議を通して参加したい意思は伝えてあるが、現在のところ交流までに至っていない。近くの幼稚園、小学・中学・高校の運動会や、市内で開催される音楽会など可能な限り毎年参加させてもらっている。</p>	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ゴミステーションの利用に分別と出し方の留意点を守り地域に心地よく受け入れられる努力を続けている。周辺の皆さんと共用するゴミステーションが、からずの被害にあいゴミの散乱が続いたので予防用の網を張ることでその後改善できた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果を謙虚に受け止め、統一したチームケアが提供できるように職員一人一人が自覚を持って努力している。自己評価や外部評価により自己のケアを振り返り見直しサービスの向上に努めている。		
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市役所担当職員や民生委員・入居者・またその家族に参加をお願いし、2か月に一回会議を開き意見交換できている。また、その際外部評価の結果も報告している。		今後も外部評価の結果を受け改めて事業所の取り組みや具体的な改善課題等を話し合うことでサービスの向上に生かしていきたい。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	社長は市役所にも再々足を運んでおり、電話等で市の担当者とは連携をとっている。管理者および職員は市の研修会には毎回参加している。		いろいろな機会にこれからも気軽に連絡を取り合い、相談や協力をお願いしていきたい。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	研修などで説明は受けるが、活用する機会が実際にないために制度の十分な理解が、できていない。		研修を受けるが、理解が難しいので今後は研修も活用し担当者から説明を受ける機会が必要だと思う。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者の人権を尊重し、介護させていただいているという意識の中、ゆったりした気持ちで接し、虐待防止に努めている。関連する研修を受講しミーティングで報告し知識を共有している。		常に利用者本人の意向や満足を第一に考え、多様なニーズに応えられる努力を勧める。職員の心身のケアにも配慮し、虐待の防止に努めていきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4.理念を実践するための体制				
12	<p>契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>管理者・職員が笑顔で出迎え、どんな小さな疑問・苦情・相談にも誠実に答え、理解や納得されるまで十分な説明を行っている。</p>		<p>利用者・家族に対し、些細なことでも連絡や報告を実施し、思いや考えを気軽に話せるような信頼関係を築いていきたい。また、退所後も関わりを大事にして可能な支援を続けたい。</p>
13	<p>運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日頃の生活の中で利用者の言動の変化に注意を払い連絡帳やミーティング等で、スタッフ全体で把握し、的確な対応に努めている。家族とも情報を共有し意見を頂いている。</p>		<p>ホールや居室にて話しやすい雰囲気心がけ、意見・不満・苦情などを引き出し、管理者を中心に問題点を改善できるように、統一したケアに努めていきたい。</p>
14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の訪問日に(納金、受診)に合わせて月別の支出確認、領収書の受け取りをしてもらうと共に残薬確認をお願いしている。受診に関しても事前に家族に病状を報告し協力を頂く。家族が都合が見つからない場合は代行し受診後の報告を行っている。</p>		<p>今後も継続し各担当者が定期で現状報告を行う事で情報交換が密になり、家族と職員の強い信頼関係を作っていきたい。</p>
15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>相談窓口の確保は掲示している。また、機会あるごとに不満や苦情はないか声掛けし確認している。</p>		<p>話しやすい雰囲気心がけ、素直に感謝を持って受け止めていきたい。</p>
16	<p>運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全職員が参加して月1回の会議を行い、意見や提案を聞き、運営に反映させている。また、年1回社長との面談も行っている。年数回の食事会にて、社長・管理者・職員間のコミュニケーションを図っている。普段言えないようなことも気軽に話せ、信頼関係が築けている。</p>		
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>勤務の調整も無理なく行えており、状況の変化にも十分対応できている。</p>		<p>緊急な勤務交代時、利用者への十分な見守り、ケアが行えるように、余裕のある勤務体制づくりに努めていく。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動に関しては、日頃から各ユニットの交流を実施し顔なじみになる努力を行っている。退職に及ばないために通常から相談できる関係作りに努めている。</p>		<p>異動・退職に至る場合は、利用者および職員のダメージが最小限ですむように努めていきたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	さまざまな職種の研修に、交替で参加している。また研修内容をミーティングで報告し、ホーム内の研修も増えている。		今後も機会があれば、可能な限り研修に参加させてもらい、質の向上に努めたい。また、毎年介護福祉士の受験に挑戦し、昨年も複数のスタッフが合格している。
20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員それぞれが他施設の職員と交流があり、お互いに情報交換して質の向上に努めている。		個人情報保持しながらも、可能な限り他施設との交流を図っていきたい。
21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	機会あるごとに広く個別に話を聞き、助言や指導を行い、問題の解決に努めている。		職員間の親睦を深めるため、昨年度は2回に分けて、1泊旅行を行った。今後も機会があれば、食事会だけでなく日帰りや1泊旅行を計画していきたい。
22	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営者は常に職員の業務や悩みを把握できている。常に知識・技術の向上を見守り、資格取得者には手当を支給してその功績を評価している。		常にケアの質の向上を目指し、ミーティング等で学習していきたい。
. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面談は、ゆっくりと時間を設け本人の思いを傾聴し少しでも本人との信頼関係を築くことができるように努めている。		ゆったりとした時間の中で、じっくりと傾聴し、本人の思いや気持ちを大切にしていきたい。
24	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時間は、家族に合わせ、バタバタすることなくゆっくりとした雰囲気の中で行っている。本人と同席で支障があると察した場合は、本人のいない場面で十分話を伺っている。		いつでもどこでも相談者のペースに合わせた傾聴を行い、問題解決につなげていきたい。また、いつでも気軽に相談してもらえようように心がけていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	十分なアセスメントを行い、可能な限りさまざまな選択肢を提案し、本人・家族にとって最良のサービスを提供できる対応に努めている。		本人とそれを取り巻く環境(家族・背景・地域)などを考慮したサービスの提供や支援を行っていきたい。学生等のボランティアや慰問・運動会や音楽会鑑賞などへの参加も継続していきたい。
26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入所前に見学や遊びにきて、入居者とともにお茶を飲みながら談笑してもらったりして、雰囲気を味わってもらえるようにしている。更に入所後も家族と相談して一緒に宿泊して頂く。外泊もされる利用者も居られる。		本人家族にとって、自分の家で生活しているような雰囲気のなか、安全・安心な暮らしとなるよう支援していきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	人生の先輩である利用者様から、さまざまなことを学んだり、教えを請いながら、ゆったりと生活していただけるように、出来ない部分のみのケアに努めている。		今後も様々な場面で、本人が出来ることを見出し、役に立っているんだという自信をもって生活できるように、支援していきたい。
28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族の来所を心から歓迎し、円満な関係の構築と、本人を支えていくための協力関係を大切にしている。またその際、本人の心身の状態や生活状況を説明・報告し一緒に考え共に支えていることを察してもらえる関係づくりを目標にしている。		本人のみならず、場合によっては家族の話相手としての支援も行い、末長く見守っていきたい。
29	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	本人・家族からの情報を十分収集し、家族のつながりから冷静に判断してよりよい関係に向けた支援を行っている。		今後も よりよい関係を築いていけるように報告・連絡・相談を随時行っていきたい。
30	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・友人の来所持は、快く過ごしててもら気軽にく来てもらえる雰囲気を与える。		本人・家族の望む場所及びふるさとの海や山への外出、知人宅への訪問を今後も続けていきたい。
31	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	新入居者入所時等特に利用者の個性を崩さないよう精一杯の努力をしている。1人1人に合った言葉かけを選び接している。職員間の情報交換を密に行っている。利用者間の交流が図れるように機会を設け互いを思い協力できるように見守り支援を行っている。		外出時などは、車内の交流が保てるように座席の工夫を行いお互いが楽しく過ごせるように見守り支援を続けていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の施設に移られた後も面会に行き本人・家族とのつながりを大事にしている。		可能な限り交流を持ち末永く関わっていきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	難しい言葉ではなく利用者が暮らしの中で常日頃口に出している思いを把握することに努めている。		今後も本人の思い意向を大切に一人ひとりを尊重していきたい。
34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前のサービス事業所からの情報そして家族からの情報を得ることでその人らしい暮らしが継続できるように把握に努めている。		入所後も一人ひとりのリズムを大切に暮らすことができるように詳細な情報収集により状況の把握に努めていきたい。
35	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	その人らしい生活が送れるように各スタッフが把握している情報を共有してサービスを提供している。		本人の状態を把握するために十分な情報収集・アセスメントを実施していきたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	作成前に本人・家族の意向や目標の確認、スタッフの意見を収集しそれぞれの意見から具体的に本人が取り組みやすい利用者本位の計画の作成に努めている。		利用者本人が取り組みやすい内容の計画作成を続けていきたい。
37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	心身の変化、ADLの低下、入退院後の見直しを要する場合は本人・家族の意向を確認し新たに計画を作成している。		見直しを行う場合は、今後も状態の変化に合わせて本人・家族・職員等の意見を総合して現状に即した計画作成を行う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員による日常の記録から情報を共有し計画作成者は支援経過を作成し実践やプラン見直しに役立てている。		今後も日常記録からの気づきを参考にして実践や計画見直しにいかしていく。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人・家族の要望に応じて受診は、職員が代行及び薬取りなども支援している。		本人・家族の要望に対して柔軟な対応をしていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防署の方を呼び避難訓練や学生の慰問、体験学習の受け入れ、近隣の方々の慰問、ボランティア訪問なども継続している。開かれたグループホームであるために外部との関わりを重視している。		
41	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者の状態に合わせ福祉用具及び福祉タクシー等のサービスを利用できるように支援している。		今後も情報を収集し必要性に応じて支援していきたい。
42	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議での情報交換は毎回行っている。		今後も包括支援センターとの情報交換を行い、新しい情報の把握に努めたい。
43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が、信頼しているかかりつけ医の受診を支援している。更に職員が受診を代行した場合は、家族へ病状を報告している。訪問診療を要する場合は家族に相談後かかりつけ医に家族からも相談していただく方法を取りお互いに本人の状況を把握している。		体調不良時は職員も家族と一緒に同行しホームでの生活状況などを医師に説明し病状の把握に努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	主治医などから認知症についての説明を受け本人の状態について相談できている。定期的に主治医の診察を受け適切な治療を受けることができている。利用者によっては病院受診は職員が心身状態を把握しているため同行する場合もある。		主治医・家族と連絡を取り落ち着いて安心した生活ができるよう支援していく。
45	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	看護職による健康状態の把握、管理ができている。ホーム内に4人の准看護師が在籍し健康管理など行っている。		随時看護職と相談して、迅速・適切な対応をしていきたい。
46	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中も職員による見舞いを行うと共に病院の相談員と情報交換を行っている。回復状況を詳しく聞く事や退院時の指導を受けることで安心して退院できるような環境作りを提供している。医療ソーシャルワーカーと連絡・相談しながら退院に向けての支援をしている。情報交換を随時行い安心して生活できるように話し合っている。		
47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の事業所の対応については入所時にも説明しているが、本人の状況を見ながら職員全員で確認しながら家族や主治医と話し合っ対応する。		入所者の状態の報告・連絡は家族の来所時または電話で報告しその都度検討していきたい。
48	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	終末期について本人家族と十分に話し合い方向性を確認している。本人の状態に合わせ支援できている。家族や医療関係者と連携を取りながら職員全体で話し合い常に最良の対応を考慮していきたい。		その人らしく生活していけるように状態を把握し日常生活を支援していきたい。
49	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	情報提供を行い今までケアした事を継続できるように心がけている。介護者の都合で転居された事例があるが、情報提供を行い本人に負担にならないように努めた。特にご本人の好きな物・好きな事を情報提供し、かなえてもらえるように転居先をお願いした。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1) 一人ひとりの尊重			
50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その人の立場にたつて誇りやプライバシーを損ねないよう常に敬う気持ちを忘れずに命令語や指示語にならないように心がけている。	利用者の思いを大切にし言動に注意していきたい。また関係者以外には個人情報を口外しないようにしている。
51	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	リラックスした状態で傾聴し話しやすい環境に努めている。理解しやすいように声かけし意思表示しやすいように取り組んでいる。	本人が自己決定できるように配慮し安心して暮らしていただけるようにしていきたい。
52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の普段の生活のリズムを大切にして職員の言動で中断することのないように配慮している。	利用者が常に主人公であることを忘れずに支援していきたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	衣類の選択に時間を要する利用者には、ゆったりと対応することで、職員が選択を強要する事のないように努めている。	本人・家族と相談し希望にそえるようにしていきたい。
54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を聞いてほとんどの人が「なんでん よかが」で終わってしまうが、菜園の野菜を取りにいったり、味見や調理の手伝いもできる人は職員と一緒にいる。	本人のできる能力を見出し職員と一緒にいけるようにしていきたい。
55	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	日常的にお酒・タバコを好む人はいない。お酒は時期に応じて希望があれば提供している。また飲み物・おやつなどは定時に提供しその他に食事の摂取状況など考慮し促している。	一人ひとりの状況に合わせて家族・管理者と相談して支援したい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	陰部の皮膚症状や不快感を与えないで気持ちよく過ごせるようにオムツの使用をできる限り避け定期・随時にトイレ誘導し排泄を促している。		失敗しても自尊心を傷つけないように配慮し、できるだけオムツを使用することなくトイレでの排泄を促していきたい。
57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日入浴できる体制である。時間帯も希望に応えられる体制である。		入浴をゆっくりと楽しめるように職員が見守りや介助を行い、安心して入浴されている。入浴中はコミュニケーションを図り個別のふれあいを楽しんでもらいたい。
58	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に起床・就寝は何時でも良い。自由に居室とホールを行き来できる環境である。居室に常時使用できるエアコンも完備されている。		本人の希望に合わせて気持ちよく過ごせるように支援していく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	調理、茶碗洗い等台所仕事の好きな方はお手伝い下さり、畑の草取りなどもされる。読書(趣味)をされる。花の種まき、苗を植えて季節の花を楽しんでいる。		些細なことでもいいので、その人らしさをもっと追及し、感謝される喜びや生きる張り合いを見出せるように支援していく。本人の心身機能を把握し能力を活かした役割を見出せるようにしていきたい。
60	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族・職員が行っている。日常生活の中で必需品は家族・職員が揃えている。ホームの買い物に同行されると支払いをお願いする。		本人の負担にならないように買い物を楽しんでもらい支払いの頻度も増やしたい。
61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	その日の体調や天候に合わせてドライブや散歩に出かけ気分転換を図っている。		いつでも外出できるように開放しており、その時の気持ちを大切にドライブ・散歩などを増やしていきたい。
62	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	利用者の皆様とドライブや外食などにも出かけている。個人の希望もできる範囲で叶えている。家族の要望にも応えて支援している。		今後も家族へ無理のない程度に外出・外泊の機会を作ってくださいようお願いしたい。ホームでは個別・集団で随時外出し気分転換活動を増やしていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書かれたら投函を代行している。本人の要望によりいつでも電話をかけていただいております。代行でかけて本人に替わり自由に話されている。年賀状、お礼状を代筆し本人に一言書いて頂く。遠方の家族への定期連絡を勧めている。		今後も継続し本人・家族が安心して生活できるように心がけていきたい。
64	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来所時は希望に応じて居室やホールで過ごしていただく。		いつでも家族・知人が気軽に来所できるよう職員の対応、雰囲気作りを心がけていきたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者を中心に勉強会を実施し利用者の思い・考えを大切にされたケアに取り組んでいる。		言葉で自由を奪うことなく本人を尊重したケアを継続したい。
66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中、玄関に鍵をかけたことはない。いつも開放している。職員は来所者、入居者の出入りを自由にして見守っている。夜間は戸締りを行い事故のないように注意している。		日中は、鍵をかけないために入居者が、ぶらりと出て行かれても職員は、さりげなく寄り添い一緒にホームに帰る。安全で自由な暮らしを支援していきたい。
67	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	入居者の状態・所在を把握し安全に過ごせるように配慮している。		その人らしい生活を心がけプライバシーに配慮しながら日常生活を把握していきたい。
68	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	一人ひとりの状態を把握してそれぞれ物品を職員が管理している。使用時は、その都度渡し見守りを行っている。また倉庫は施錠し事故のないように努めている。その人の心身の状況を把握し、能力に応じた対応をしている。		
69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の方へ目配り、気配りで接している。皆様の生活状態を把握している。		その人の状態を考慮し、個別に見守り・介助を実施し事故防止に取り組んでいきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	救急救命士による講習を殆どの職員が受講しており、急変・事故発生時の対応が適切に行えるよう努めている。		今後も訓練を定期的に行い緊急時にあわてることなく適切な対応・処置ができるようにしていきたい。
71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署や地域住民の協力をもらい、夜間想定避難訓練を実施。更に今年度は地震訓練も実施できた。介護保険法に基づいた計画で定期的実施できている。		地域住民との交流を図り緊急時いつでも多くの人々の協力を得られるようにしていきたい。
72	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	心身状態を考慮して起こりうる事故・リスクについて家族と話をしている。事故予防をすると共に、その人らしい生活を損なわないようなケアに努めたい。		今後も家族の来所時の心身の状態・日常生活の様子を報告し、その人に合った生活ができるよう対応策を話し合っていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎日のバイタル測定を行い健康状態を把握し、異常の早期発見に努めている。異常時は管理者・家族へ連絡し病院受診など適切な対応ができている。		通常から一人ひとりの病状を把握し異常の早期発見につなげていきたい。看護職と話し合い適切な対応をしていきたい。
74	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに投薬説明書が綴じてあり、いつでも確認することができる。誤薬を防ぐために2人以上の職員で薬を整理、確認し事故防止に努めている。日常生活の中で心身の状態を観察し薬の効果を確認している。		本人による管理は難しいため今後も確実に服薬ができるように職員が管理を行う。
75	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	入居者の疾病を理解すると共に水分補給・体操・散歩などに積極的に誘い気分転換も心がけている。		日頃から予防に努めているが、数日間排便がない。腹部症状を訴えるようであれば医師の指示を受け対応していきたい。
76	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後口腔ケアを実施して清潔に努めている。自分で口腔ケアが難しい場合は介助や見守り、確認している。		清潔保持に努めていくと共に発赤・腫脹などの症状がないか確認していく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	体重を毎月測定し摂食量、飲水量などを日常チェック表に記録し目安にしている。定期的に栄養士の指導を受けバランスの良い摂取を心がけている。なるべく野菜中心の献立でバランスの取れた食事の提供を目標としている。主食・副食共に一口大・刻みにするなど、一人ひとりの状態に合わせている。		今後も健康維持のために栄養摂取や水分補給に努めていきたい。
78	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	他入居者への感染が考えられる疾患は契約により家族の協力を得て自宅療養してもらっている。		他入居者への感染予防に努めたい。
79	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	手洗いの徹底と共に調理で使用するまな板や包丁・布巾など消毒液を使用し衛生管理に努めている。		安全・安心した食生活が提供できるよう衛生管理に努めていきたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先にプランターを使用し季節の花を植えている。玄関内は整理整頓・掃除を行い安全・安心して気持ちよく出入りできるように心がけている。また入居者を写真で紹介している。玄関先にはスロープ・手すりも設置してあり高齢者から車椅子利用者も安心して来所されている。気軽に来所できるような職員の対応に心がけ、玄関・ホール内の清潔に努めている。		
81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じてホーム内に手作りの壁画などを作成し楽しんでもらえている。また音や照明も快適に過ごせるように調整し配慮している。		利用者一人ひとりの感覚や価値観を大切にしながら居心地の良い共同空間を提供していきたい。
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テーブル・いす・ソファなどホール内に2箇所設置しており、それぞれいつでも使用できるように整えている。また畳の空間もあり落ち着いて過ごせるように配慮している。環境を整え安心して落ち着いた生活ができる空間作りに心がけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人や家族と相談し家具や馴染みの品を自由に持ち込めるようにしている。なるべく自宅と変わらない環境を整え落ち着いて過ごせるようにしている。		その人らしい居室になるように落ち着いた雰囲気作りを支援していきたい。
84	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	日中、窓の開閉、換気扇を使用し部屋の換気に心がけている。季節によりエアコンで温度調整を行い快適に過ごせるようにしている。利用者の希望を確認し外気で大丈夫であれば窓を開け扇風機を使用する。また季節に合わせてエアコンで室温を調整するが、身体に負担がないように室外との温度差には注意をはらっている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室・ホール内の必要な箇所に手すりを設置し安心して安全に行動ができるように工夫している。また安全に移乗できるように椅子も安定感のある物を使用している。		残存機能を活用し自立した生活が営めるように環境の改善・福祉用具の適切な使用を工夫していきたい。
86	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	日常生活の中で出来ること・出来そうなことを職員が見守り一緒に行い自立支援に努めている。		今の生活を維持できるように今後も職員と一緒に出来ることを増やしていきたい。
87	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	出入り口には安全のためにスロープ・手すりが設置してあり安心して外出できるようにしてある。芝生の広場は散歩や食事などの気分転換の場として利用している。		外でも過ごしやすい季節は芝生の広場で園児や学生などを招待し楽しく過ごせる機会を設けていきたい。

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
98	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

* 入居者の心身機能を維持できるように可能な限り外出の機会を作り気分転換を図っている。* ゆとりある介護を提供する為にスタッフの人数を十分確保している。